|  | 福島県 福島市  （中核市） | 岡山県 総社市 | 広島県 尾道市 | 福岡県 久留米市  （中核市） | 熊本県 熊本市  （政令市） | 千葉県 市川市 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 人 口 | 281,236人  （R4.5月1日時点） | 69,602人  （R4.4月末日時点） | 131,041人  （R4.4月末日時点） | 302,610人  （R4.5月1日時点） | 730,875人  （R45月1日時点） | 492,011人  （R4.4月末日時点） |
| 問１  貴市において、ペット同伴避難所を設置した経緯をご記入ください。 | 福島市の指定避難所はペット同行避難を可能としているが、避難所におけるペットの避難場所は駐輪場や軒下のため、日頃から家族の一員としてペットと暮らしている飼い主にとって、安心してペットと避難できる状況ではなかった。そのため、飼い主が躊躇することなくペットと一緒に避難できるペット同伴避難所の設置が求められていた。  　飼い主とペットが同じスペースで避難生活を送ることができる施設を探し、令和３年９月１日福島市勤労青少年ホーム体育館に避難所を設置した。 | 市長から「ペットは家族！！ペット同伴避難所を、市役所内市長室を使用してでも良いから設置しろ。」との指示があったため。 | ペットは家族の一員であるという意識が一般的になってきており、近年の災害時においても自宅においてきたペットのために家に戻った飼い主が二次被害にあったり、避難所でペットの受入れを拒否された飼い主が車上生活を余儀なくされ、エコノミー症候群で亡くなるといった事例があったことを受け、令和元年に、旧市町単位で１か所ずつ、計５か所のペットの同伴避難が可能な避難所を整備した。 | 平成30年度より相次ぐ豪雨災害等により指定避難所を開設する中で、市民より、ペットと一緒に避難できる同伴避難所の設置要望があったため、令和３年度より設置している。 | 特別警報の発表が想定された令和２年台風10号時、暴風雨等で避難所の屋外でペットを受け入れることが困難であった中、ペットと一緒に避難したいという市民の声を受け設置したもの。 | ペットは、家族の一員と考える市民の増加に対応することを目的として、ペット同伴避難所の設置を決定しました。 |
| 問２  ペット同伴避難所の設置には様々な課題点が挙げられています。貴市では課題点をどのように解決されたのかご記入ください。 | 福島県獣医師会、動物愛護ボランティア会、NPOが参加し、避難所の開設に向けてのワークショップや避難所現地視察、避難訓練を行い、避難所運営の注意点やペットの鳴き声等の課題解消等について意見交換を行った。 | **衛生面**   * 避難所床前全面にブルーシートを敷き、部屋・階段の出入り口に消毒液を含ませたタオルを敷き、入退室時の消毒をした。 * ペット排泄物用のダストBOXを設置。   **マナー**   * ペット同伴の避難所を決めて案内する。 * ケージ・リード等を使用することを徹底した。 | 【ペット同伴避難者とそれ以外の方との棲み分け、鳴き声等】  複数の部屋・会議室等が存在する施設をペット同伴避難所として選定することで、生活スペースについては物理的に区分している。 | 当市のペット同伴避難所は「ペット同伴専用の避難所」であり、避難者はケージに入れたペットとともに4㎡のパーテーションテント内に滞在するので、避難者の棲み分けは問題にならないが、ペット同伴避難所付近の一部の住民からは、指定一般避難所を各小学校区に1か所ずつ開設している当市の現況において、人の避難所の開設（増設）を優先すべきとの声が上がっている状況。この意見への対応として、地域住民が自主的に設営する地域独自避難所の設置を促す説明を行っている。 | * ペット対応のノウハウを持つペットの専門学校との災害協定の締結 * ペット同伴避難所を運営する職員として、動物愛護センター職員（獣医師）の活用 * ケージに入れられていないペットがおり、当該ペットを含めた世帯ごとの生活空間の確保が困難であったため、今後はケージの持参は必須と考えている。 |  |
| 問３  発災時に貴市がペット同伴避難所を開設した際、実際に生じた課題点などはありましたか。 | 令和４年３月福島県沖地震（福島市震度６弱）発生の際、ペット同伴避難所を開設し２世帯が避難した。朝晩かなり冷え込んだが（最低気温３度）、暖房設備がなくブルーヒーターと毛布での対応となり、夏や冬に災害が発生した場合の暑さ・寒さへの対策が改めて課題となった。 | ペットフードが全国から支援物資として届いたが、日ごろから食べ慣れているものを購入して持ち込んでいたため、支援物資の利用は少なかった。  対処したときの施設、用品のクリーニングが大がかりであった。  鳴き声や散歩を考慮して、住宅街から離れたところでの設置が望ましい。 | 特段の課題や要望は報告されていません。 | ■帰宅される際の糞尿の後始末への対応  避難所を閉鎖する際の清掃について、長時間、閉鎖空間に動物が滞在したことで、匂いが染みついたブルーシートの消毒など、従来の避難所とは異なる作業が発生した。清掃は避難者自身にお願いしているが、現実は避難所従事者が清掃作業を行っており、負担になったと聞いている。掃除機を別途購入。 | * 動物愛護センター職員（獣医師）を中心に運営を行ったが、マニュアルの整備ができていないため、配置人数や運営方法等に問題があった。 * 一般の避難所と併設し開設したため、鳴き声、臭い、アレルギー、噛みつき、糞尿などの問題も生じた。 |  |
| 問４  貴市のペット同伴避難所はどのように設置しましたか。 | **既に指定している避難施設とは別に新たに設置** | **既に指定している避難施設の一部に設置**  体育館のサブアリーナや特定の会議室をペット同伴用にした。 | **既に指定している避難施設の一部に設置** | **既に指定している避難施設とは別に新たに設置**  避難施設は外環状道路沿いで全市内からアクセスが良く、施設内に空調のある大きな部屋（バトミントン場、卓球場、休憩スペース等）を複数有しており、避難所として良好な施設と考えている。 | **既に指定している避難施設の一部に設置** | **既に指定している避難施設とは別に新たに設置** |
| 問５  新たにペット同伴避難所を設置する場合、対応する市職員の増員など　人的負担等が増加すると考えられますが、どのように体制を整えているのかご記入ください。 | 本市は避難所を担当する避難支援班を設置しているが、避難支援班を一班追加するとともに、保健所衛生課動物愛護係の獣医師を配置した。また、福島県獣医師会とペット同伴避難所の支援に関する協定を締結し、飼い主やペットへの支援をお願いしている。 | 避難所スタッフ（市職員）が24時間体制で常駐した。  また、獣医師、保健所、愛護センター等関連機関とも連携し、専門的な指示をいただいた。動物の支援団体は、人間よりも動物を優先しすぎて避難所の批判をする意見が多かったため退席してもらった。 | 既に指定している避難所からペット同伴避難所を選定しているため、職員の増員等は行っていない。ペット同伴避難所の担当職員に対しては、避難所運営マニュアルにペット受け入れ時の手順や心得等を掲載し説明することで、周知を図っている。 | 市職員２名で避難所運営を行い、ペットへの専門的指導として、保健所の職員が巡回を行っている。本部との連携を密にし、避難者が急増した場合、本部より、職員を配置できるような体制をとっている。 | * 民間のペット専門学校の活用（災害協定を締結） * 動物愛護センター職員（獣医師）を中心とした運営 | 市川市では一部の施設でペット同伴避難を認めております。ペット同伴避難所は、災害や被害状況を勘案して、開設場所を決定しますが、開設・運営については、環境部の職員で対応することとしております。 |
| 問６  貴市ではペット同伴避難所の場所の選定にあたり、基準、方針などを作成していますか。 | 作成していない | 作成していない | 作成していない  下記の選定条件を基に選定を行った。  ①旧市町に１避難所ずつ  ②部屋が複数ある施設であること  ③風水害に対する開設避難所のうち、１次避難所であること | 作成していない | 作成していない |  |
| 問７  避難された方とペットとのスペース作りはどのように行っているのかご記入ください。 | ペット同伴避難所は飼い主一名とペット専用のスペースとなっている。また、ペットの家族やペットがいない避難者のために、同一敷地内の別建物に避難スペースを設けている。 | ペット同伴避難所は別の部屋を設けている。 | 避難所の１室をペット同伴スペースとして選定し、ブルーシートを敷いて、同伴避難者が持参したキャリーケースやゲージなどを設置してもらう。  　清掃等の同伴スペースの管理は、同伴避難者が実施するよう依頼する。 | 避難者とペットはパーテーションテント（２ｍ×２ｍ）内のスペース内で避難してもらうこととしている。 | ペット同伴避難においても、ペットと人の避難の居室は分離する方向で調整を進めている。 | * 避難スペースの目安は1人あたり約４㎡とペットのケージスペースとする。 * 感染症流行時においては世帯毎の距離を２ｍ以上おくこと。 * 可能な限り、犬と猫の避難生活区域の距離をあける。 |